



(表 3-3-4-1) 食事拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
		有効回答数	253	100.0
環境調整	101	少人数席に変更	46	18.2
	102	広い場所から小さい場所へ変更	3	1.2
	103	好きな場所で食事を取る	75	29.6
	104	花等をテーブルに置き、落ち着いた環境	18	7.1
	105	食事メンバー	17	6.7
	107	席位置の変更	5	2.0
	108	静かな環境を調整	7	2.8
	190	その他	5	2.0
	声かけの工夫	201	本人ペースで声かけ	181
202		声かけの内容を工夫	35	13.8
203		作業の流れで声かけ	13	5.1
204		食事前からこまめに声かけ	39	15.4
205		声かけをせず、職員と一緒に	72	28.5
211		好きな話題で声かけ	77	30.4
212		家族の話題	51	20.2
216		仲の良い人が声かけ	3	1.2
217		声かけ、会話量の増加	2	0.8
誘導の工夫	226	配膳をしてもらう	17	6.7
	227	調理を手伝う	27	10.7
	228	おしぼりを渡す	4	1.6
	229	食事前にお茶を提供	35	13.8
	230	食事内容、献立の説明	56	22.1
	238	誘導時間の調整	3	1.2
	290	その他	2	0.8
食事の工夫	301	食べやすいよう、盛りつけを工夫	108	42.7
	302	カロリーを考慮し、おやつを提供	45	17.8
	303	水分摂取量を増やした	36	14.2
	304	外出時、外食に誘導	30	11.9
	305	一緒に買い物に行き、好きなメニューにする	12	4.7
	306	好きな食べ物を見せる	78	30.8
	307	好きな献立にする	63	24.9
	308	食事時間の調整	3	1.2
	309	職員と一緒に食事	9	3.6
	310	最初だけ介助	2	0.8
	312	食器の工夫	5	2.0
	313	食材の形態、色等の工夫	12	4.7
	314	食事回数の調整	1	0.4
	333	量を減らす	3	1.2
390	その他	3	1.2	
生活のリズム	401	活動量を増やす	108	42.7
	402	生活のリズム調整	30	11.9
	403	静かな、落ち着いた環境をつくり、静養	14	5.5
	404	ぐっすり眠ってもらうようにした	58	22.9
	405	一端、休憩	37	14.6
	406	発声練習	14	5.5
	409	趣味活動を実施	2	0.8
	410	コミュニケーションをふやす	86	34.0
	490	その他	2	0.8
	その他	502	受容し、安心してもらった	25
503		義歯調整	17	6.7
504		医療的対応	4	1.6
506		排便調整	2	0.8
507		服薬の調整	3	1.2
508		疼痛管理	1	0.4
590		その他	5	2.0

(参考)平均回答項目数 → 6.4

(表 3-3-5-1) 食事拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			1,441	100.0
認知能力	1	認知機能	39	2.7
	2	認知症の種類	22	1.5
	3	認知症の症状	92	6.4
	4	認知症罹患期間	2	0.1
健康面	5	体調	148	10.3
	6	現病・既往歴	41	2.8
	7	排泄状況	61	4.2
	8	水分状態	69	4.8
	9	視力・視覚機能	16	1.1
	10	体重・BMI	12	0.8
	11	運動量	62	4.3
	12	睡眠時間・状況	86	6.0
	13	手指腕の機能	29	2.0
	14	薬の種類、服薬状況	49	3.4
	15	麻痺	3	0.2
	16	味覚・嗅覚	34	2.4
口腔機能	17	口腔状況	46	3.2
	18	咀嚼力	36	2.5
	19	嚥下状態・誤嚥	52	3.6
心理面	20	気分	333	23.1
	21	心配ごと・不満状況	130	9.0
	22	本人の気持ち、意志	392	27.2
食事関係	23	食の嗜好・興味・意欲	309	21.4
	24	最近の食事量	62	4.3
	25	当日の食事量・おやつ量	68	4.7
	26	満腹感、空腹感	44	3.1
	27	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	116	8.0
	28	盛付	82	5.7
	29	食器の配置	37	2.6
食事中の状態	30	食中の様子	88	6.1
	31	姿勢	30	2.1
	32	目線	44	3.1
	33	食事中の会話	92	6.4
	34	表情	137	9.5
習慣	35	最近の食習慣	82	5.7
	36	生活習慣(ここ数年)	117	8.1
	37	生活歴(幼少期から)	141	9.8
環境	38	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	136	9.4
	39	席の位置	98	6.8
	40	椅子・机の形	1	0.1
	41	椅子・机の高さ	15	1.0
	42	椅子・机の色	0	0.0
人間関係	43	他の入居者との関係	162	11.2
	44	スタッフとの関係	223	15.5
	45	家族関係	104	7.2
介護者の対応	46	スタッフの声かけ内容・見守り方	419	29.1
その他	47	所持金/ 経済不安	22	1.5
	48	その他	3	0.2

(参考) 平均記入項目数 →

3.0



(表3-3-3-5-2) 食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン (潜在クラス17クラスモデルのプロファイル)

Table with 17 columns (パターン1 to パターン17) and 47 rows (区分 1 to 47). Each cell contains numerical values representing profile data for different categories like 認知機能, 睡眠, 食事摂取, etc.

(注) 該当事例は、各パターンのサイズ(厚み)から算出して選別したものであり、厚みが極端な場合、事例数が同数となることがある。

(表 3-3-5-3) 潜在クラスモデル評価(食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン)  
(情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	28685.5	28442.9	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	27958.4	27468.0	0.061	0.788	0.740	0.776
モデル3(クラス数3)	27605.7	26867.4	0.087	0.801	0.760	0.776
モデル4(クラス数4)	27660.5	26674.4	0.143	0.778	0.723	0.716
モデル5(クラス数5)	27766.2	26532.3	0.169	0.778	0.719	0.699
モデル6(クラス数6)	27878.4	26396.7	0.154	0.797	0.746	0.724
モデル7(クラス数7)	28010.1	26280.5	0.159	0.800	0.752	0.721
モデル8(クラス数8)	28211.8	26234.4	0.164	0.794	0.762	0.721
モデル9(クラス数9)	28428.9	26203.6	0.152	0.788	0.776	0.731
モデル10(クラス数10)	28648.7	26175.6	0.160	0.795	0.775	0.726
モデル11(クラス数11)	28889.7	26168.8	0.177	0.789	0.774	0.717
モデル12(クラス数12)	29115.7	26146.9	0.178	0.790	0.777	0.714
モデル13(クラス数13)	29409.6	26193.1	0.179	0.790	0.777	0.715
モデル14(クラス数14)	29646.4	26182.0	0.191	0.776	0.779	0.704
モデル15(クラス数15)	29906.9	26194.6	0.183	0.789	0.792	0.715
モデル16(クラス数16)	30188.6	26228.5	0.175	0.795	0.801	0.725
モデル17(クラス数17)	30489.2	26281.3	0.169	0.809	0.813	0.733
モデル18(クラス数18)	30749.6	26293.8	0.180	0.788	0.798	0.717
モデル19(クラス数19)	31030.5	26326.9	0.209	0.761	0.786	0.688



(表3-3-3-5-4) 食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
環境調整	101	少人数席に変更	1.44	1.63	1.41	1.34	1.07	1.05	1.04	1.02	95	66	68	65	62	46	38	33	33
	102	広い場所から小さい場所へ変更	2.9	0.6	1.9	1.4	0.0	2.2	2.14	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	103	好きな場所から食事を取る	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	104	好きなメニューから注文を取る	4.9	1.9	4.9	4.7	2.4	11.6	12.6	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	105	食事メニューを1つに変更	1.0	0.3	1.7	0.0	0.7	3.1	3.3	1.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	106	席位置の変更	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	107	席位置の変更	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	108	席位置の変更	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	109	その他	0.3	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	110	その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
声かけの工夫	201	本人ペースで声かけ	11.8	3.4	7.1	28.6	24.0	19.3	11.4	14.4	1.8	3.8	10.7	2.1	6.0	25.3	4.9	10.7	15.6
	202	声かけのペースを工夫	2.2	2.2	2.7	3.5	5.2	3.6	0.7	0.7	0.4	0.2	2.6	0.2	0.1	4.2	2.4	0.0	0.0
	203	作業のペースを工夫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	204	作業のペースを工夫	2.3	2.2	3.4	4.2	4.4	1.1	3.4	1.9	4.4	0.6	5.1	1.1	9.2	4.5	2.3	2.5	5.1
	205	声かけのペースを工夫	4.7	1.7	3.3	7.3	10.0	1.5	2.4	1.6	1.8	0.3	3.1	0.6	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1
	211	好きなペースで声かけ	4.6	0.6	1.9	3.7	8.0	4.8	1.7	1.0	1.0	0.2	10.1	0.2	0.6	0.3	0.1	0.0	0.0
	212	好きなペースで声かけ	0.6	0.6	5.3	2.1	2.0	0.7	2.6	0.4	2.6	0.8	24.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	216	好きなペースで声かけ	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	217	声かけのペースを工夫	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	218	声かけのペースを工夫	1.7	2.0	2.2	1.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
食事の工夫	301	食べやすいように盛り付けを工夫	7.0	17.4	5.2	0.9	0.6	5.3	1.0	6.2	0.4	0.4	2.3	3.9	5.9	23.3	12.4	0.4	7.3
	302	カプセルを考慮し、おやつを提供	4.0	1.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	303	水分摂取量を確保した	2.4	1.4	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	304	外出時、外食に誘導	1.7	6.9	1.3	1.4	0.6	4.5	0.0	1.1	0.8	0.0	0.4	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3	0.0
	305	一緒に買い物をし、好きなメニューにする	0.7	2.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	306	好きな食べ物を提供する	4.9	6.9	7.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	307	好きなペースで声かけ	3.7	14.1	6.1	0.0	1.6	2.4	0.3	0.1	0.1	2.2	1.8	8.4	0.1	0.4	2.6	8.1	3.3
	308	食事のペースを工夫	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	309	職員と一緒に食事	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	310	最初だけお湯	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活のリズム	401	生活リズムを調整	6.5	0.8	5.9	2.1	1.9	1.5	4.6	1.1	4.4	0.5	10.6	0.2	8.6	21.7	0.6	0.0	16.2
	402	生活のリズムを調整	0.9	0.5	2.2	2.6	1.4	4.7	0.0	1.8	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	403	好きなペースで食事を取る	0.9	0.0	1.4	0.2	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	404	好きなペースで食事を取る	3.7	0.0	1.1	3.2	4.2	3.8	3.8	0.1	2.6	1.6	3.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	405	声かけの工夫	0.1	0.1	2.3	4.1	0.6	4.1	1.5	4.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	406	声かけの工夫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	409	生活リズムを調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	410	生活リズムを調整	5.1	4.1	4.1	9.3	13.5	1.3	4.5	2.4	18.0	0.0	17.0	0.0	1.3	1.8	0.0	1.0	3.4
	480	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	502	実習し、安心してもらった	1.5	0.0	0.0	0.6	0.3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
503	環境調整	1.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
504	環境調整	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
506	声かけの工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
507	声かけの工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
508	声かけの工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
580	その他	0.2	0.2	1.2	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	

(注) 滞在クラス運営履歴による集計

(表 3-3-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	本人任せで 放っておく	強制的な声 かけ	しかったり、 怒り口調で 声かけ	会話の内容 を否定する	強引に口に 入れる	無理やり席 に座らせる	食べないか らとすぐに下 膳する	その他
実数	249	170	216	226	197	225	209	211	32
パーセント	100.0	68.3	86.7	90.8	79.1	90.4	83.9	84.7	12.9

### 3. 食事中断への成功事例調査

#### 1) 回答者属性

本調査の回答 260 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

##### (1) 年齢

有効回答 254 件における回答者の平均年齢は、42.9 歳 (SD11.9 歳) で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 90 歳であった。その分布をみると、25 歳から 59 歳までほぼ均等にばらついている。(表 3-4-1-1 参照)

##### (2) 性別割合

有効回答 258 件中、回答者の性別割合は男性が 47 件 (18.2%)、女性が 211 件 (81.8%) と女性の割合が多かった。(表 3-4-1-2 参照)

##### (3) 職名の割合

有効回答 240 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 95 件 (39.6%)、ケアマネージャーが 80 件 (33.3%)、看護師が 19 件 (7.9%)、相談員が 10 件 (4.2%) となっている。(表 3-4-1-3 参照)

##### (4) 役職の割合

有効回答 247 件中、回答者の役職の割合は管理者が 100 件 (40.5%)、主任・リーダーが 71 件 (28.7%)、施設長が 15 件 (6.1%)、事務長が 3 件 (1.2%)、理事長が 1 件 (0.4%) で、67 件 (27.1%) が役職なしであった。(表 3-4-1-4 参照)

##### (5) 資格の所有割合

有効回答 255 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 153 件 (60.0%)、ケアマネージャーが 103 件 (40.4%)、ヘルパーが 99 件 (38.8%)、看護師 (准看護師) が 30 件 (11.8%)、社会福祉士が 16 件 (6.3%) であった。(表 3-4-1-5 参照)

##### (6) 所属事業種の割合

有効回答 254 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 240 件 (94.5%)、介護老人福祉施設が 4 件 (1.6%)、介護老人福祉施設 (ユニット型) が 3 件 (1.2%)、小規模多機能型通所介護事業が 2 件 (0.8%) であった。(表 3-4-1-6 参照)

##### (7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 260 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.3 年 (SD3.7 年) で最少が 0.2 年、最高が 37.0 年であった。(表 3-4-1-7 参照)

##### (8) 総介護経験年数

有効回答 251 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.9 年 (SD5.2 年) で最少が 0.6 年、最高が 28.7 年であった。(表 3-4-1-8 参照)



## 2) 食事中断の解決経験

本調査に回答を得た 260 件における食事中断の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

### (1) 解決経験の有無

有効回答 253 件中、食事中断で解決経験があるのは 239 件 (94.5%) であった。  
(表 3-4-2-1 参照)

### (2) 高齢者の状態

#### ① 年齢

解決経験がある 239 件のうち有効回答 230 件における高齢者の平均年齢は、84.4 歳 (SD6.8 歳) で最少年齢が 52 歳、最高年齢が 99 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 69 件 (30.0%) で最も多い。(表 3-4-2-2 参照)

#### ② 性別

性別割合は、有効回答 238 件中、男性が 43 件 (18.1%)、女性が 195 件 (81.9%) と女性が多い。(表 3-4-2-3 参照)

#### ③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 221 件中、アルツハイマー型が 129 件 (58.4%)、脳血管疾患型が 46 件 (20.8%)、前頭側頭型が 3 件 (1.4%)、混合が 16 件 (7.2%) であった。(表 3-4-2-4 参照)

#### ④ 身体機能の障害とADL

##### 【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 239 件中、下肢が 80 件 (33.5%)、体幹が 6 件 (2.5%)、上肢が 2 件 (0.8%)、首が 1 件 (0.4%) であり、残りの 150 件 (62.8%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 3-4-2-5 参照)

##### 【食事介助】

食事介助は、有効回答 223 件中、自立が 107 件 (48.0%)、一部介助が 105 件 (47.1%)、全介助が 11 件 (4.9%) であった。(表 3-4-2-6 参照)

##### 【移動】

移動は、有効回答 166 件中、短距離歩行自立が 97 件 (58.4%)、長距離歩行自立が 38 件 (22.9%)、杖自立が 25 件 (15.1%) であった。(表 3-4-2-7 参照)

##### 【排泄】

排泄は、有効回答 213 件中、身体介助必要が 150 件 (70.4%)、身体介助必要なしが 63 件 (29.6%) であった。(表 3-4-2-8 参照)

##### 【入浴】

入浴は、有効回答 228 件中、全介助が 81 件 (35.5%)、洗身洗髪介助が 75 件

(32.9%)、移動介助が 32 件 (14.0%)、その他一部介助が 37 件 (16.2%) で、自立が 3 件 (1.3%) であった。(表 3-4-2-9 参照)

#### ⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 237 件中、ランク I が 11 件 (4.6%)、ランク II が 30 件 (12.7%)、ランク III が 83 件 (35.0%)、ランク IV が 101 件 (42.6%)、ランク V が 12 件 (5.1%) であった。(表 3-4-2-10 参照)

#### ⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 226 件中、J ランクが 16 件 (7.1%)、A ランクが 146 件 (64.6%)、B ランクが 57 件 (25.2%)、C ランクが 7 件 (3.1%) であった。(表 3-4-2-11 参照)

#### ⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助で自立 (72.1%) が多く、身体障害の重症度で A ランク (87.5%) が多く、認知症の重症度でランク II (23.0%)、ランク III (49.0%) の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 195 件のうち 107 件 (54.9%) が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助 (70.9%) が多く、身体障害の重症度で B ランク (52.7%) と A ランク (35.4%) が多く、認知症の重症度でランク IV (72.4%) が多くことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 88 件 (45.1%) が該当する。(表 3-4-2-12 参照)  
(潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-4-2-13 参照)

#### (注 1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として A I C や B I C などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である(注 2 参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。



### 3) 解決前と解決後の変化

食事中断で解決経験がある 239 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出した。

#### (1) 解決前の状況

食事中断が解決される前の状況としては、有効回答 238 件中、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」が 148 件 (62.2%) と際立って多く、「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」が 35 件 (14.7%)、「食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた」が 27 件 (11.3%)、「たまに全量摂取するが殆ど残していた」が 20 件 (8.4%)、「おこずは食べるが、ご飯だけ残していた」が 18 件 (7.6%)、「食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた」が 17 件 (7.1%) であった。(表 3-4-3-1 参照)

#### (2) 解決後の状況

食事中断が解決された後の状況としては、有効回答 238 件中、「中断する回数が減り、最後まで食べられるようになった」が 155 件 (65.1%) と際立って多く、「好みに合わせたときは食べた」が 47 件 (19.7%)、「職員と同じペースで食べられることも増えてきた」が 20 件 (8.4%) であった。(表 3-4-3-2 参照)

### 4) 食事中断の解決方法

食事中断で解決経験がある 239 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

#### (1) 解決方法の概況

食事中断を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 50 分類した。分類結果は、声かけの工夫に関するものが 7 分類、誘導の工夫に関するものが 7 分類、メンバー調整に関するものが 4 分類、食事の工夫に関するものが 13 分類、食事環境調整に関するものが 11 分類、その他が 8 分類であった。

有効回答 238 件のなかで多くあがったものは、「ペースを尊重し、食事の促し」が 164 件 (68.9%)、「促さず、見守る」が 140 件 (58.8%)、「食物の形態を変更」が 120 件 (50.4%)、「好きな場所で」が 115 件 (48.3%)、「職員と一緒に」が 111 件 (46.6%)、「食事の認識を促す」が 97 件 (40.8%)、「急かさず、声かけの繰り返し」が 86 件 (36.1%)、「食事を一端止め、待つ」が 84 件 (35.3%)、「仲の良い人と食べる」が 79 件 (33.2%)、「静かな環境で」が 75 件 (31.5%)、「食事前にトイレへ誘導」が 71 件 (29.8%)、「好みのものにする」が 62 件 (26.1%) などであり、1 事例あたり平均 7.3 項目あげられた。(表 3-4-4-1 参照)

### 5) 食事中断の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。



有効回答延べ 1,571 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのかが分析した。

#### (1) 役立った情報の概況

有効回答 1,571 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 473 件 (30.1%)、「気分」が 428 件 (27.2%)、「本人の気持ち、意志」が 388 件 (24.7%)、「食の嗜好・興味・意欲」が 241 件 (15.3%)、「他の入居者との関係」が 218 件 (13.9%)、「周囲の雰囲気・刺激 (音・光・匂い)」が 206 件 (13.1%)、「食中の様子」が 205 件 (13.0%)、「スタッフとの関係」が 203 件 (12.9%)、「表情」が 202 件 (12.9%)、「食事中的会話」が 158 件 (10.1%)、「席の位置」が 157 件 (10.0%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.1 項目あげられた。(表 3-4-5-1 参照)

#### (2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 20 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「周囲の雰囲気・刺激 (音・光・匂い)」(44.1%)、「席の位置」(43.1%)、「他の入居者との関係」(38.0%)、「気分」(35.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(28.4%) などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 238 件 (15.2%) である。

第 2 パターンは平均 3.3 項目の組み合わせであり、「表情」(55.3%) を主として、「食中の様子」(48.9%)、「気分」(36.7%)、「本人の気持ち、意志」(29.4%)、「周囲の雰囲気・刺激 (音・光・匂い)」(27.3%) などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 175 件 (11.2%) である。

第 3 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(71.8%) と「スタッフとの関係」(61.2%) を主として、「他の入居者との関係」(34.6%)、「食事中的会話」(22.3%) などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 133 件 (8.5%) である。

第 4 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「咀嚼力」(58.8%) を主として、「嚥下状態・誤嚥」(45.2%) と「口腔状況」(41.4%) を加えた“口腔機能”にウェイトを置き、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(31.6%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 114 件 (7.3%) である。

第 5 パターンは平均 2.4 項目と最少の組み合わせであり、「生活習慣(ここ数年)」(42.7%) や「生活歴(幼少期から)」(38.5%) の“習慣”にウェイトを置き、「家族関係」(35.2%)、「本人の気持ち、意志」(23.7%)、「食の嗜好・興味・意欲」(20.5%) などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 103 件 (6.6%) である。

第 6 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」

(93.4%)を共通ベースとして、「気分」(50.8%)も多く、「心配ごと・不満状況」(33.1%)を加えた“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第6パターンの該当方法は延べ79件(5.0%)である。

第7パターンは平均3.2項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(71.9%)を主として、「気分」(40.4%)、「本人の気持ち、意志」(32.4%)、「最近の食習慣」(33.9%)、「生活習慣(ここ数年)」(27.1%)などで構成されている。第7パターンは延べ77件(4.9%)である。

第8パターンは平均4.2項目と最多の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.7%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(71.0%)、「気分」(65.2%)、「心配ごと・不満状況」(27.0%)、「食中の様子」(28.3%)、「スタッフとの関係」(29.4%)などで構成されている。第8パターンは延べ75件(4.8%)である。

第9パターンは平均2.5項目の組み合わせであり、「食の嗜好・興味・意欲」(99.5%)を共通ベースとして、「気分」(20.0%)他に分散して構成されている。第9パターンは延べ72件(4.6%)である。

第10パターンは平均3.4項目の組み合わせであり、「食事中的会話」(66.4%)を主として、「表情」(26.0%)、「気分」(41.2%)、「食の嗜好・興味・意欲」(29.9%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.5%)、「スタッフとの関係」(30.4%)などで構成されている。第10パターンは延べ70件(4.5%)である。

第11パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(59.2%)と「表情」(50.0%)を主として、「食の嗜好・興味・意欲」(37.2%)、「満腹感、空腹感」(35.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(30.5%)などで構成されている。第11パターンは延べ55件(3.5%)である。

第12パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「排泄状況」(99.7%)を共通ベースとして、「水分状態」(26.0%)、「気分」(27.4%)などで構成されている。第12パターンは延べ55件(3.5%)である。

第13パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(64.1%)、「認知症の症状」(54.0%)、「気分」(52.8%)の3項目を主として、「嚥下状態・誤嚥」(31.5%)他で構成されている。第13パターンは延べ50件(3.2%)である。

第14パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「体調」(77.2%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(57.8%)も多く、「気分」(47.3%)、「睡眠時間・状況」(45.8%)、「認知機能」(25.7%)などで構成されている。第14パターンは延べ50件(3.2%)である。

第15パターンは平均2.8項目の組み合わせであり、「食器の配置」(65.3%)と「盛付」(59.7%)を主として、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(20.5%)を含めた“食事関係”、「認知機能」(21.4%)などで構成されている。第15パタ



ーンの該当方法は延べ 48 件 (3.1%) である。

第 16 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「最近の食事量」(49.2%)、「当日の食事量・おやつ量」(46.4%)、「満腹感、空腹感」(36.5%)、「盛付」(24.9%)、「食の嗜好・興味・意欲」(21.8%)、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(20.9%)などにウェイトを置いて構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 42 件 (2.7%) である。

第 17 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(73.6%)を主として、「食の嗜好・興味・意欲」(47.2%)、「盛付」(27.7%)、「咀嚼力」(27.9%)などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 40 件 (2.6%) である。

第 18 パターンは平均 3.4 項目の組み合わせであり、「認知症の症状」(52.6%)、「認知症の種類」(29.9%)、「認知機能」(20.3%)といった“認知機能”にウェイトを置き、「体調」(21.2%)、「現病・既往歴」(20.9%)などで構成されている。第 18 パターンの該当方法は延べ 37 件 (2.4%) である。

第 19 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「運動量」(66.6%)、「体調」(48.4%)、「水分状態」(36.2%)、「排泄状況」(33.5%)などの“健康面”にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」(20.9%)などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 28 件 (1.8%) である。

第 20 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「目線」(71.3%)と「認知機能」(51.3%)を主として、「姿勢」(46.4%)、「本人の気持ち、意志」(32.1%)、「視力・視覚機能」(28.7%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(26.9%)などで構成されている。第 20 パターンの該当方法は延べ 26 件 (1.7%) である。(表 3-4-5-2 参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-4-5-3 参照)

### (3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 12 パターン(「排泄状況」を共通ベースとして、「水分状態」、「気分」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ)は、「食事前にトイレへ誘導」が 73.4%と多い。

第 4 パターン(「咀嚼力」を主として、「嚥下状態・誤嚥」と「口腔状況」を加えた“口腔機能”にウェイトを置き、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などで構成された平均 2.6 項目の組み合わせ)は、「食物の形態を変更」が 67.3%と多い。

第 19 パターン(「運動量」、「体調」、「水分状態」、「排泄状況」などの“健康面”にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ)は、「食事前の活動を促す」が 55.1%と多い。

第 17 パターン(「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「盛付」、「咀嚼力」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わ



せ)は、「食物の形態を変更」が32.4%、「ペースを尊重し、食事の促し」が22.3%と多い。

第3パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「他の入居者との関係」、「食事中的会話」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ)は、「職員と一緒に」が26.4%と多い。

第7パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「最近の食習慣」、「生活習慣(ここ数年)」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ)は、「ペースを尊重し、食事の促し」が25.6%と多い。

第14パターン(「体調」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「睡眠時間・状況」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ)は、「促さず、見守る」が24.8%と多い。

第1パターン(「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」、「席の位置」、「他の入居者との関係」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ)は、「好きな場所で」が21.8%と多い。

第16パターン(「最近の食事量」、「当日の食事量・おやつ量」、「満腹感、空腹感」、「盛付」、「食の嗜好・興味・意欲」、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などにウェイトを置いて構成された平均3.0項目の組み合わせ)は、「食器の大きさを変えた」が21.7%と多い。

第11パターン(「本人の気持ち、意志」と「表情」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「満腹感、空腹感」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ)は、「ペースを尊重し、食事の促し」が20.4%と多い。(表3-4-5-4参照)

## 6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答235件中、「しつこく、怒り口調で声かけ」が217件(92.3%)、「強引に口に入れる」が210件(89.4%)、「強制的な声かけ」と「会話の内容を否定する」が各207件(88.1%)、「本人任せで放っておく」が163件(69.4%)となっている。(表3-4-6-1参照)

(表3-4-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	254	7	29	35	44	28	27	30	37	17
パーセント	100.0	2.8	11.4	13.8	17.3	11.0	10.6	11.8	14.6	6.7

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
254	42.9	11.9	21	90

(表3-4-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	258	47	211
パーセント	100.0	18.2	81.8

(表3-4-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	240	95	10	80	19	68
パーセント	100.0	39.6	4.2	33.3	7.9	28.3

(表3-4-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	247	15	100	71	3	1	67
パーセント	100.0	6.1	40.5	28.7	1.2	0.4	27.1

(表3-4-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	255	30	153	16	103	99	22
パーセント	100.0	11.8	60.0	6.3	40.4	38.8	8.6

(表3-4-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	254	4	3	240	2	8
パーセント	100.0	1.6	1.2	94.5	0.8	3.1

(表3-4-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
260	4.3	3.7	0.2	37.0

(表 3-4-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
251	8.9	5.2	0.6	28.7

(表 3-4-2-1) 食事中断の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	253	239	14
パーセント	100.0	94.5	5.5

(表 3-4-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	230	16	33	58	69	54
パーセント	100.0	7.0	14.3	25.2	30.0	23.5

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
230	84.4	6.8	52	99

(表 3-4-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	238	43	195
パーセント	100.0	18.1	81.9

(表 3-4-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	221	129	46	3	16	27
パーセント	100.0	58.4	20.8	1.4	7.2	12.2

(表 3-4-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	239	1	2	80	6	150
パーセント	100.0	0.4	0.8	33.5	2.5	62.8

(表 3-4-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	223	11	105	107
パーセント	100.0	4.9	47.1	48.0



(表3-4-2-7) 移動

	解決経験のある 有効回答数	杖自立	短距離歩行 自立	長距離歩行 自立	その他(回答 者追記)
実数	166	25	97	38	6
パーセント	100.0	15.1	58.4	22.9	3.6

(表3-4-2-8) 排泄

	解決経験のある 有効回答数	身体介助必 要	身体介助必 要なし
実数	213	150	63
パーセント	100.0	70.4	29.6

(表3-4-2-9) 入浴

	解決経験のある 有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介 助	その他一部 介助	自立
実数	228	81	32	75	37	3
パーセント	100.0	35.5	14.0	32.9	16.2	1.3

(表3-4-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある 有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認 知症を有す るが、日常生 活は家庭内 及び社会的 にほぼ自立 している	日常生活に 支障を来た すような症 状、行動や 意思疎通の 困難さが多 く見られて も、誰かが注 意していれ ば自立でき る	ランクIIの症 状がときど き見られ、介 護を必要と する(徘徊、失 禁など)	ランクIIの症 状が頻繁に 見られ、常に 介護を必要 とする	著しい精神 症状や問題 行動あるいは、 重篤な身体 疾患が見られ 専門医療を要 する
実数	237	11	30	83	101	12
パーセント	100.0	4.6	12.7	35.0	42.6	5.1

(表3-4-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある 有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障 害を有する が、日常生 活はほぼ自 立しており独 力で外出す る	屋内の生活 は概ね自立 しているが、 介助なしに 外出しない	屋内の生活 は何らかの 介助を要し、 日中もベッ ト上での生活 主体で座位 を保つ	一日中ベッ トで過ごし、 排泄、食事、 着替えにお いて介助を 要する
実数	226	16	146	57	7
パーセント	100.0	7.1	64.6	25.2	3.1

(表 3-4-2-1 2) 食事中断高齢者のパターン  
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=195)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			自立、中程 度重症度	一部介助、 中高程度重 症度
サイズ		1.000	0.551	0.449
性別	男	0.159	0.157	0.162
	女	0.841	0.843	0.838
食事介助	全介助	0.041	0.000	0.091
	一部介助	0.472	0.278	0.709
	自立	0.487	0.721	0.200
認知症の 重症度	I	0.056	0.092	0.013
	II	0.133	0.230	0.015
	III	0.339	0.490	0.153
	IV	0.421	0.173	0.724
	V	0.051	0.015	0.095
身体障害の 重症度	J	0.077	0.107	0.040
	A	0.641	0.875	0.354
	B	0.246	0.018	0.527
	C	0.036	0.000	0.080

(参考) 該当事例数 → (195) (107) (88)

(表 3-4-2-1 3) 潜在クラスモデル評価 (食事中断高齢者パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1431.3	1398.5
モデル2(クラス数2)	1411.2	1342.5
モデル3(クラス数3)	1448.4	1343.6
モデル4(クラス数4)	1488.3	1347.5

(表 3-4-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べのをやめてしまっていた	食事の途中で手を止め、その後はお手をつけず寝てしまっていた	食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	たまに全量摂取するが殆ど残っていた	おかずは食べるが、ご飯だけ残っていた	食事中にそれぞれ落ち着きが見られず、苦痛な表情をしていた	その他
実数	238	148	27	35	20	18	17	44
パーセント	100.0	62.2	11.3	14.7	8.4	7.6	7.1	18.5

(表 3-4-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	中断する回数が減り、最後まで食べられるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせて食べたいものは食べた	その他
実数	238	155	20	47	45
パーセント	100.0	65.1	8.4	19.7	18.9